

ACTIVITY 開発のための教育 『ちょっと自慢できること』 『情報の分析』

ちょっと自慢できること

【目的】

「あの人はこういう人だ」と決めつけてしまうことは日常よく見られる。ふだん一緒にいる人たちの意外な側面を知ることを通して、決めつけや偏見の危険性を理解する導入とする。

【所要時間の目安】

約45分

【用意するもの】

白紙の短冊を各自に1枚



すすめかた

① 自分がちょっと自慢できることを1つ書いてみよう

参加者は、配られた白紙の短冊に自分がちょっと自慢できることを1つ書く。指導者もこの作業に参加してもよい。指導者は、記入にあたっては下記の点に留意するよう参加者に伝える。

- ・おそらくみんなが知らないだろうと思うものを書く。
- ・あまり大きな自慢ではなく、ちょっとした自慢であること。
- ・成績のこととか、お金持ちであるとか、参加者を序列化するような内容は好ましくない。
(例)手話で自己紹介ができる、ごはんを自分で炊ける、車の名前はたいてい言える、人工呼吸の方法を知っている、きのうこういうことでおじいさんにほめられた などなど

② 全員の短冊を集め、コピーして各自に配布する

指導者は、全員から短冊を集め、一覧できるようにコピーをとり、参加者全員に配布する。

③ だれの短冊かな

参加者はどの短冊はだれが書いたものかを想像する。グループで相談し合ってもよい。

④ 発表

コピーの端から順に、短冊の作者が自分の短冊を読むようにして、全員が短冊を読む。短冊の作者は、自分の短冊を読むだけでなく若干の説明を加えたり、その場でできるものは実演したりする。

⑤ ふりかえり

意外に思ったものはたくさんあったらどうか。
なぜ意外に思ったのだろうか(ここでは個人名を出して発表することは避ける)。
あの人はこういう人だ、と決めつけてしまうことについてどう思うか。

情報の分析

【目的】

情報の中には、情報を送る側の意図があるないに関わらず、受け手に固定観念を与えるものがあることを学ぶ。

【所要時間の目安】

約45分(情報の素材探しの時間は含まない)

【用意するもの】

模造紙、ペン



すすめかた

① 情報の素材を探してくる

本やマンガ、テレビドラマ、広告(複数)、流行歌の歌詞(複数)など、自分たちの情報源となっているものを探してくるよう伝える。

② 分析表を作る

参加者は3~4人1組になり、集めた素材をもとに模造紙に「分析表」を書く。下の分析表は、あるテレビドラマを素材に「性別」に関する分析を行った例である。

右列では「性別」に関する分析を行っているが、例えば、
子ども/おとな/高齢者
日本人/外国人
のような分析も考えられる。

③ 分析の結果を発表する

④ 気づいたことの話し合い

他のグループの発表も聞いたうえで、どのようなことに気づいたかを話し合う。例えば上の表では、女性の登場人物と男性の登場人物とでは、どのような違いや傾向が見られるだろうか? また、それはなぜだろうか? といったことを話し合う。

このとき、指導者は「固定観念」について説明することができる。「固定観念」は、偏見につながり、差別にむすびついたり、対立をあおるために利用されたりすることもある。

	女性	男性
登場したか	はい、登場。主人公	はい、登場。主人公
-年齢	職業的、経験が深い	若くして、経験不熟
-国籍	職業的(アメリカン)	アメリカン
-性別	女性	男性
-性格	冷静、自信、心算	熱心、情熱
気づいたこと	女性の場合は、仕事、恋愛、家庭	男性の場合は、仕事、恋愛
気づいたこと	女性の場合は、仕事、恋愛、家庭	男性の場合は、仕事、恋愛
気づいたこと	女性の場合は、仕事、恋愛、家庭	男性の場合は、仕事、恋愛